山梨小学校

確かな学力の定着・向上を目指した指導の工夫

～　対話的な学びを取り入れた授業の工夫　～

本校の児童は，全体的に明るく素直で，何事も前向きに取り組むことができる雰囲気がある。

今年度の全国学力学習状況調査においては，国語・算数で全国の平均正答率をやや上回る結果であった。領域や観点別に見ると，国語の「読むこと」「言語についての知識理解」や算数の「数と計算」等の内容については，良いと考えられる。課題の傾向としては全国と同様の傾向があり，国語では，目的や意図に応じて自分の考えを話したり，適切な語句を用いて書いたりする力に課題があると考える。算数でも，自分の考えを適切な言葉や，図及び数式を用いて説明する力に課題があると考える。全国学力学習状況調査児童質問紙では，児童の学習・生活状況や児童の意欲について，全ての項目で全国を上回るかほぼ同じ傾向であった。家庭学習をみると，宿題や予習や復習等に取り組む児童の割合が多くなってきてはいるが，ほぼやらない・全くやらない児童もいて，個人差があることが分かる。よりよい学習習慣の形成と確かな学力の定着・向上に向けて努力を続ける必要がある。

本校ではこれまで，基礎学力の確実な定着を図った授業づくり・授業改善を進め，児童の確かな学力の定着・向上を目指し研究を進めてきた。本年度は，それらを継続し，新学習指導要領のねらいにかかわる主体的で対話的な学びの実現にむけての授業の質的向上による確かな学力の育成，家庭学習定着の推進等に取り組んだ。

また，今年度，来年度の２ヵ年にわたり，山梨県金融広報委員会より，「金融・金銭教育研究校」を委託された。金融教育は，お金や金融の様々な働きを理解し，それを通じて自分の暮らしや社会について深く考え，自分の生き方や価値観を磨きながら，より豊かな生活やよりよい社会づくりに向けて，主体的に行動できる態度を養う教育である。金融教育に取り組むことは，本校の研究主題にある，「確かな学力」の主体的に取り組む態度や思考力・判断力・表現力を育成することにつながると考えられる。

Ⅰ　研究の内容と方法

1　授業づくりの研究

R・P・D・C・Aサイクルの確立

（1）児童の実態把握

・「全国学力学習状況調査」「ＮＲＴ」の結果分析と対策活用

・Q-Uを活用しての児童の実態把握

（2）課題解決に向けた取り組み

・金融金銭教育の視点を生かした主体的な学びの実践授業

・学力調査の課題に対する改善プランの作成と一人一実践授業

・主体的で対話的な学びの実現に向けての「やまなしスタンダード」による授業改善

（3）講師を招聘しての学習会

・６月１９日　「金融教育」について

講師　教育研究所所長　金融教育アドバイザー　上笹純夫先生

・８月２１日　「道徳の指導と評価」について

講師　総合教育センター　指導主事　山田睦子先生

（4）金融金銭教育の教育課程作成

2　学習環境・基盤づくり

（1）Q-Uを活用した学習集団づくり

（2）学習の決まりの活用と定着

・学習あたりまえ６か条の掲示と学習規律の定着の取り組み

（3）主体的な家庭学習の定着を図る
・授業と連動した宿題の取り組み
・「家庭学習の手引き」の配付
・「自主学習ノート」の取り組み
・家庭学習チェック表の取り組み
・保護者への啓発

Ⅱ　研究実践

1　金融・金銭教育にかかわる研究授業

（1）第1学年　　学級活動「ものとのかかわりをみつめよう」
授業者　金子　佐由美

（2）第5学年　　家庭科「じょうずに使おうお金と物」
授業者　今村　志帆

2　「確かな学力」授業改善一人一実践授業

算数科（2，4，5年，6年，特支）　国語科（4年，特支）
理科（5年）　体育科（3年）

Ⅲ　成果と課題

1　成果

・対話的な学びを取り入れることで，分かりやすく伝えるにはどのように話せばいいのか？自分と相手の共通点と相違点は何か？など少しずつ他者意識を持てるようになってきた。
・実生活に即した興味ある題材や内容を扱ったことで，子供たちは主体的に学習していた。
・掲示をするなど手立てを工夫することで，これまでの学習を生かそうとする姿が見られた。
・自分の考えを，根拠をもちながらまとめる力がついてきている。
・金融金銭教育にかかわる年間指導計画を作成することができた。
・金融教育の題材を取り上げた学習を仕組み，「物やお金を大切にするにはどうしたらよいか」や「商品を選ぶときに気を付けたり工夫したりすること」や「よりよい消費者としての役割」について考えたり，実践しようとしたりする学習が仕組めた。
・家庭科を授業参観でも行ったので，家庭の理解も得られ効果的であった。家庭への啓発となった。
・家庭学習の手引きの配付やチェック表の取り組み等を通して，家庭学習の時間の確保について8割程度の児童が確保できている。
・自学ノートのコピーやノートを掲示することで，児童への動機づけや保護者への啓発となった。自学への取り組みについても6割程度の児童が取り組めるようになってきている。

2　課題

・友達との交流の中でさらに考えを深められるよう時間を確保したい。
・考えを交流することを通して，友達の考えと比べ，さらに自分の考えを深められるように話し合いの視点等を明確にしていきたい。
・まだまだ定着まではいかないが，対話的な活動を取り入れていくといかないとでは大きな差があると思うので，今後も効果的に取り入れることが必要だと思う。
・「自主学習ノート」は，今後もノートの質を高めていくことや，取り組みの意欲向上につなげていくことが大切になってくる。積極的に自主学習に取り組む児童がいる一方で，毎日の宿題にも取り組めない児童がいるなど，差も大きい。家庭学習の定着や自学ノートの取り組みの定着について，継続指導していく必要がある。

（研究主任　渡邉　満智子）